

令和7年3月10日
国立大学法人神戸大学

「アセットオーナー・プリンシプル」の受入れについて

神戸大学は、アセットオーナー（資産保有者としての機関投資家）として、アセットオーナーの運用・ガバナンス・リスク管理に係る共通の原則（アセットオーナー・プリンシプル）に賛同し、受入れることを表明します。

原則1. アセットオーナーは、受益者等の最善の利益を勘案し、何のために運用を行うのかという運用目的を定め、適切な手続に基づく意思決定の下、経済・金融環境等を踏まえつつ、運用目的に合った運用目標及び運用方針を定めるべきである。また、これらは状況変化に応じて適切に見直すべきである。

- 神戸大学は、資産を安全かつ効率的に運用することにより、中長期的な財務基盤の強化を図るとともに、将来の教育研究の発展に資することを目的として運用を行っています。
- 運用目的を達成するため、運用による収益確保を目標に、運用資金や運用対象資産の範囲を規則によって定め、本学の財務状況や経済・金融環境等を踏まえて、リスクとリターンのバランスを勘案したうえで、具体的な資産構成割合（基本ポートフォリオ）を定めています。
- これらの運用目標・運用方針を定めるにあたっては、財務を担当する理事を中心に資金運用管理委員会において審議を行い、決定しています。
- 資金運用管理委員会は運用状況をモニタリングし、必要に応じて基本ポートフォリオの見直しを学長に提案します。

原則2. 受益者等の最善の利益を追求する上では、アセットオーナーにおいて専門的知見に基づいて行動することが求められる。そこで、アセットオーナーは、原則1の運用目標・運用方針に照らして必要な人材確保などの体制整備を行い、その体制を適切に機能させるとともに、知見の補充・充実のために必要な場合には、外部知見の活用や外部委託を検討すべきである。

- 神戸大学は、適切な資金運用管理に資するため、資金運用管理委員会を設置しています。
- 資金運用管理委員会は学内外の有識者で構成され、運用状況をモニタリングし、必要に応じて運用方針に関する審議を行っています。

○今後も運用規模の拡大、高度化の進展に合わせた外部人材活用による体制強化と、内部職員の人材育成に努めてまいります。

原則3. アセットオーナーは、運用目標の実現のため、運用方針に基づき、自己又は第三者ではなく受益者等の利益の観点から運用方法の選択を適切に行うほか、投資先の分散をはじめとするリスク管理を適切に行うべきである。特に、運用を金融機関等に委託する場合は、利益相反を適切に管理しつつ最適な運用委託先を選定するとともに、定期的な見直しを行うべきである。

○神戸大学は、運用目標を安定的に達成するため、中長期的な運用目標や財務状況を勘案し、期待リターンとリスクを考慮してポートフォリオを構築しています。

○運用委託先の選定の際には、本学の運用方針を示したうえで公募を行い、提案を受けて、委託先運用機関の運用方針、運用プロセス、組織体制、実績等を評価し、選定しています。

○運用委託先に対しては、定量評価及び定性評価による総合評価を定期的に行っています。

原則4. アセットオーナーは、ステークホルダーへの説明責任を果たすため、運用状況についての情報提供（「見える化」）を行い、ステークホルダーとの対話に役立てるべきである。

○神戸大学は、半年ごとの資産クラス別の運用実績、資金運用管理委員会の開催状況等の情報をWEBサイトで公表しています。

○統合報告書においては、資金運用の体制や方針等の記事を掲載しています。

○引き続き、ステークホルダーへの説明責任を適切に果たせるよう、情報公開に努めてまいります。

原則5. アセットオーナーは、受益者等のために運用目標の実現を図るに当たり、自ら又は運用委託先の行動を通じてスチュワードシップ活動を実施するなど、投資先企業の持続的成長に資するよう必要な工夫をすべきである。

○神戸大学は、グリーンボンド等での運用を通して、SDGs 実現への取組を支援しています。

○運用委託先の選定の際には、ワーク・ライフ・バランス等の取組を評価基準に含めるなど、持続的成長に資する工夫をしています。